

北九州市環境首都総合交通戦略 北九州市地域公共交通計画 概要版



令和4年3月
北九州市
City of Kitakyushu



1. 計画の概要

(1) 計画策定の趣旨

北九州市では、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく「北九州市地域公共交通計画（北九州市環境首都総合交通戦略）」を策定し、過度のマイカー利用から、地球環境にやさしい鉄道やバスなどの公共交通や自転車への利用転換を図るとともに、多様な移動手段が確保され、かつ持続的に利用することができる交通体系を実現するため、市民・企業・交通事業者・行政が連携して、今後の都市交通のあり方を総合的に検討し、効果的な交通施策を展開していくこととしています。

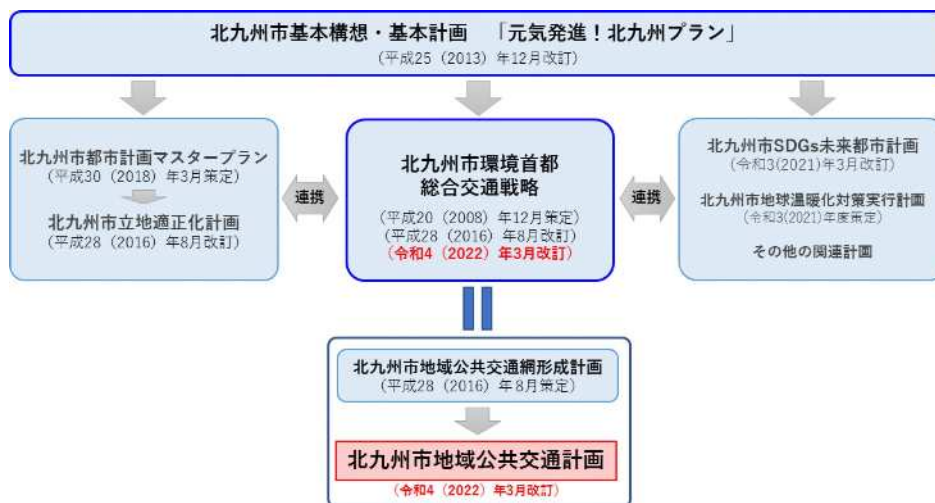
(2) 計画の対象区域と期間

計画の対象区域は、北九州市全域とします。

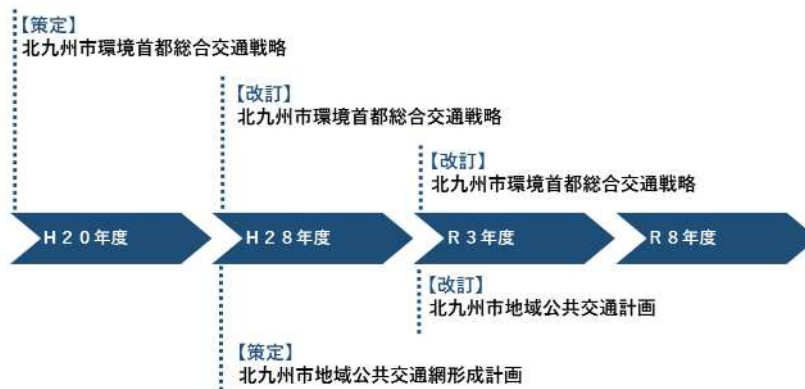
計画期間は令和3年度（2021年度）から概ね5年間とします。

(3) 計画の位置づけとこれまでの経緯

「北九州市地域公共交通計画（北九州市環境首都総合交通戦略）」は、北九州市基本構想・基本計画「元気発進！北九州プラン」を踏まえて、「北九州市都市計画マスタープラン」や「北九州市立地適正化計画」、「北九州市地域温暖化対策実行計画」などの関連計画と連携を図り、戦略的に推進します。



《北九州市地域公共交通計画の位置づけ》



《北九州市地域公共交通計画と交通戦略の改訂経緯》

2. これまでの交通施策の取組み

前計画では、30の交通施策の中で、その取組みの柱となる下記の7つの重点施策を掲げて、交通事業者や住民、行政等が協働し、これまでに様々な施策を取り組んできました。

1. モビリティマネジメントの実施



高齢者モビリティマネジメント(H29～R2)
計52箇所(約2,200人)

2. 交通結節機能の強化



乗継環境の改善
下曽根駅(R1～、JRと西鉄バスの乗継案内表示・駅舎内にバス待ちスペース)



駅前広場の整備
八幡駅(R1完成)



学校モビリティマネジメント(H28～R2)
計15校(約600人)

バス待ち環境改善



バス停上屋



スマートバス停

上屋10基、ベンチ62基、広告付バス停11箇所、スマートバス停44箇所(H28～R2)

3. 幹線バス路線の高機能化

(R1～:小倉～黒崎・小倉～戸畑、
R3～:小倉～恒見(門司))



連節バスの導入

小倉～戸畑線(南小倉駅前バス停)

4. バリアフリー化の推進



駅のバリアフリー

折尾駅(R2完成)



ユニバーサルデザインタクシーの導入

(R2～補助制度創設)

5. 筑豊電鉄の高機能化



低床式車両の導入

(H27～H29、4編成)

6. おでかけ交通への支援強化



利用促進の広報

市政だより掲載写真(R1)

7. 徒歩・自転車での移動環境・利用環境の改善



自転車の利用促進

シェアサイクル事業(事業開始、R3～)

3. 公共交通を取り巻く現状

(1) 交通手段と公共交通ネットワーク

北九州市には、JR、モノレール、筑豊電鉄、路線バスなどの様々な公共交通があり、さらに、エアポートバス、渡船、シェアサイクルなどの交通手段も存在します。

公共交通の特徴は、都市部と郊外部の移動を担う北九州モノレールや筑豊電鉄、公共交通空白地域の交通を担う「おでかけ交通」が挙げられ、公共交通が市域全体に網羅されており、効率的に移動できる環境にあります。



《北九州市内の公共交通マップ》

■北九州市内の主な公共交通

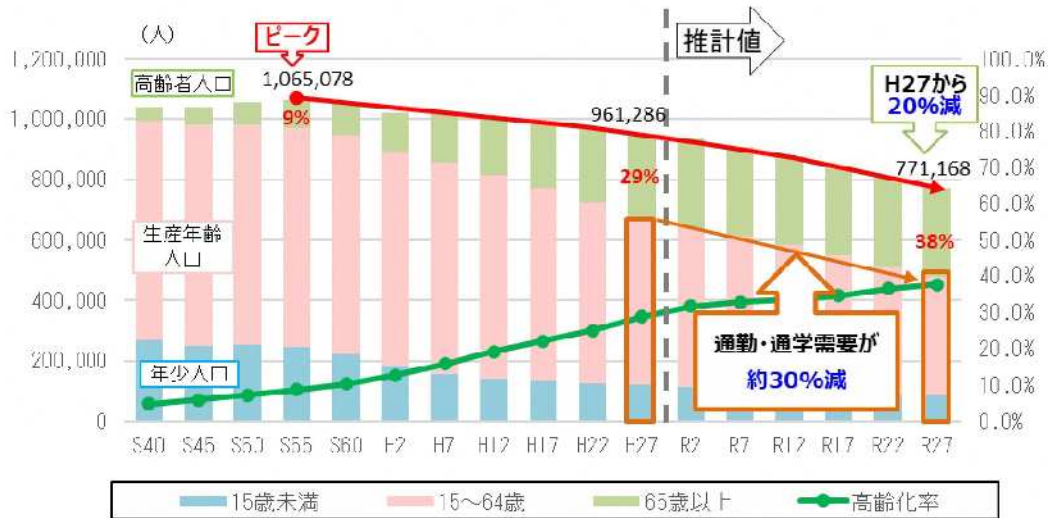
	公共交通手段	役割
大量輸送	鉄道（山陽新幹線、JR鹿児島本線、JR日豊本線、JR筑豊本線、JR日田彦山線）	市内の主要地点を結ぶ都市内移動と、市外や他県などの広域移動を担う
	軌道（北九州モノレール）	小倉駅や黒崎駅でJR駅と結節し、都市内及び都市間輸送を担う
	鉄道（筑豊電鉄）	鉄道駅等の結節点と接続し、市内の拠点を結ぶ地域と幹線を結ぶ日常生活路線を担う
中量輸送	大型・中型バス（西鉄バス、北九州市営バス）	地域と幹線を結ぶ日常生活路線を担う
少量輸送	小型バス（西鉄バス、北九州市営バス）	地域内を結び日常生活路線を担う
	おでかけ交通（ジャンボタクシー・セダntaxi）	一定の人口が集積する公共交通空白地域の生活交通を確保する
個別輸送	タクシー	個別需要に対応した移動を担う

(2)人口動向

北九州市の人口は、令和 27 年(2045 年)に約 77 万人と現況人口の約 80%になり、高齢者(65 歳以上)人口の占める割合は、令和 27 年(2045 年)に約 38%に増加すると推計されています。

一方、65 歳未満の人口は、令和 27 年(2045 年)に約 48 万人となり、通勤・通学需要が約 30%減少すると見込まれています。

■人口推移と高齢化率の推移



(3)公共交通利用の推移

北九州市における公共交通利用者は、昭和 40 年代前半からの右肩下りの減少は、下げ止まり横ばいで推移していました。

しかし、令和 2 年(2020 年)は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、大幅に減少しています。

■公共交通利用者数の推移

